

結団45周年の誇りを胸に、地域の防火防災に励む

狛江消防少年団



狛江市の消防少年団は1976年4月、全国で初めて発足し、昨年で45周年を迎えました。現在は、小学3年生から高校3年生までの子ども達、64名が所属し、消火活動や防災について学んでいます。毎年11月開催の「市民まつりパレード」や、「火の用心」と声かけする火災予防の夜間パトロールで、彼らの姿を見たことがあるのではないのでしょうか。

団員達は月に1~2回、狛江消防署に集まり、訓練を行います。道具こそ実際のものより小さくて軽いものの、消火ホースを使用した実践的な消火訓練です。消火器の取り扱いや心臓マッサージも、全員が習得しているのだとか。同じく消防署で訓練をする消防士の方々の姿を見て、刺激を受けながら訓練に励んでいます。

学ぶのは、消火や救助活動だけではなくありません。狛江消防少年団が大切にしていることに、「規律」と「礼儀作法」があります。そのため訓練の始めには、消防少年団の「七つのちかい」を暗唱し、上級生の号令で「気をつけ」「右にならえ」といった規律訓練を行います。また大会などで他の地域の少年団員や指導員と会うときは、必ず自分達から挨拶をし、周りの大人を驚かせるそうです。さらに、上級生が積極的に下級生の面倒をみるため、リーダーシップも自然と養われていきます。もちろん入団当初から全員が積極性を持っているわけではありませんが、子ども達同士が声を掛け合って活動するうちに、徐々に培われていくものだということです。子ども達

摩川沿いの川田旅館で、上級生の幹部研修として自炊合宿を行い、秋には芋掘り、東京タワーの施設見学と、徐々に訓練以外の活動もできるようになってきました。この2年間で、団員数が減ってしまった消防少年団が多い一方、狛江市の消防少年団は、年々団員数が増えているそうです。コロナ禍でも手探りで活動を続けてきた成果が認められ、2021年3月には特に優良な消防クラブ表彰（総務大臣表彰）を受けました。

一方で、団の活動を支えるスタッフや指導員の数が先細りしているという課題も抱えています。保護者の方々は、お子さんが少年団を退団する際に一緒に抜けてしまうので、なかなか定着してサポートしていただくのが難しいのだそうです。少年団員達がもっと安全に、のびのびと活動してもらうために、今、地域の大人達の力が必要とされています。



ロープ結びに挑戦中！
指導員の帽子には櫛谷さん手作りのバッジが



狛江消防署の櫛谷さんにお話を伺いました

の成長を見守ることが、指導員や保護者の方々の喜びとなっています。

一昨年、昨年はコロナ禍に活動を制限され、子ども達が毎年楽しみにしていた野外キャンプも開催することが叶いませんでした。しかし昨年3月には多

編集後記

地域の「消防団」の存在は知っていましたが、「消防少年団」もあることを今回の取材で初めて知りました。実際の火災現場に出動することはないものの、大人顔負けの厳しい訓練に励んでいます。将来は消防団員や消防士を目指す子どもも少なくないそうで、たくましい限りですね。（熊沢）